

# 孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム 第3回シンポジウムの開催

(令和4年12月20日開催、Web会議形式での開催。事前登録者302名、視聴者数190名)

- ・官民連携プラットフォームでは、孤独・孤立対策に関する全国的な普及活動を行うためシンポジウムを開催。
- ・第3回は、分科会2で議論された包括的支援や各主体の役割の在り方等を踏まえつつ、孤独・孤立が生まれやすい社会における各セクターの役割と連携等を、NPO・自治体・有識者の様々な視点から議論するシンポジウムを開催。

## 孤独・孤立官民連携プラットフォームと分科会の紹介

報告者 内閣官房 孤独・孤立対策担当室

## 分科会2の紹介：現在の議論内容の報告

報告者 全国社会福祉法人経営者協議会 事務局/宮内良樹氏

概要 多様な主体が当事者や家族等への支援に関わることにより、切れ目なく息の長いきめ細かな支援や地域における包括的支援を推進するため、各主体の役割や責務、各主体間の連携の在り方を整理。制度内外の境界部分では、行政・民間が強みを活かす形で適切な組合せで対応すべき。施策・事業の運用改善などについては引き続き議論を行う。

## パネルディスカッション

### 孤独・孤立が生まれやすい社会における、各セクターの役割と連携

#### モデレーター

内閣官房 孤独・孤立対策担当室 政策参与/大西連氏

#### パネリスト

- ・社会福祉法人全国社会福祉協議会 地域福祉部長/全国ボランティア・市民活動振興センター長/高橋良太氏
- ・特定非営利活動法人日本NPOセンター 事務局長/吉田建治氏
- ・座間市 市長/佐藤弥斗氏
- ・北海道大学大学院 保健科学研究所 創成看護学分野 地域看護学公衆衛生看護学教室 教授/田高悦子氏

- 「課題解決型の支援」「つながり続けること」「日常生活環境における対応」における各セクターの強みと役割、課題について議論。公的な制度でカバーしきれない問題に対して多様な主体が協働して支え合うこと、ならびに支え合う仕組みづくりが必要。孤独・孤立対策では日常の中からつながっていくアプローチも考え方の一つのポイント。また、当事者に限らず周囲の意識を変革する必要があり、各セクターが周囲の+αの役割の支援も行うことが望ましい。
- 「制度内」「制度外」「制度内外の境界」における各セクターの強みと役割について議論。各セクターがお互いの立場を理解し、対等に対話や協働することが大切で、より充実した制度・事業の実現にもつながる。孤独・孤立の背景の重なる部分を見つけ連携し、「制度内」の拡張、「制度外」の自治向上や中間支援等が求められる。共助・互助の仕組み構築も重要。
- 各セクターの役割として多様な在り方の広がりがある。そこに国民の役割も加え、引き続き対話と政策実現に取り組む。